

宝小コミュニティまちづくり計画案

宝塚の顔としての安心・安全・快適なまちをめざして
みんなでつながるまちづくり計画案

はじめに	1
わたし達のまちの概要	2
わたし達のまちの魅力	4
わたし達のまちの課題	6
わたし達のまちづくり計画	10
計画を実現するために	20

はじめに

＜まちづくり協議会とは＞

宝塚市の各地域では、自治会、老人会、PTA、福祉ボランティア、民生・児童委員、さらに目的ごとの学習グループや趣味のサークルなどがさまざまに活動してきました。しかし、急速な社会の変化の中で、高齢・少子化、青少年の健全育成、地球規模の環境問題など広範囲で複雑な地域課題が増えてきました。こうした課題を解決するためには、地域のあらゆる人たちが一体となり、意見を出し合い、ともに協力して活動を展開することが大切であり、自治会を中心としながら、地域で活躍する人の連携をはかり、知恵やエネルギーをひとつのものとする組織として「まちづくり協議会」が、概ね小学校区を単位として設立されることとなりました。

宝小コミュニティは、宝塚小学校区を単位として、平成9年11月30日に設立しました。宝小コミュニティの組織は、「広報部」「文化学習部」「健康スポーツ活動部」「子ども育成活動部」「福祉活動部」の5つの活動部と、役員・事務局の執行部から構成されています。

＜まちづくり計画とは＞

これまで、行政が主体となって、市民の意見を取り入れながらいろいろな計画が作られてきました。しかし、地域の個性や魅力を生かし、市民が本当に豊かさを実感できる「市民との協働のまちづくり」を実現するためには、各地域において住民が主体となって「地域ごとの小さな魅力の核づくり」を進める必要があります。これを具体的に描き出し、共有していくものが地域でつくる「まちづくり計画」です。

宝小コミュニティでは、まちづくり協議会を中心に「まちづくり計画」づくりの方を協議し、コミュニティ委員のみならず、各地域の自治会役員や市民にも声をかけて、平成16年9月に「宝小コミュニティまちづくり計画策定部会」を立ち上げました。この部会でさまざまなテーマから議論・検討を進め、その成果をまちづくり計画案としてまとめました。

わたし達のまちの概要

宝小コミュニティ地域は、宝塚市の南部市街地にあり、南は武庫川、北は中国道、東は清荒神参道、荒神川、西は西宮市界で仕切られた地域です。

JR 宝塚駅、阪急宝塚駅を中心として、武庫川沿いの商業施設、公共施設が集積する地域、有馬街道沿いの歴史ある地域、丘陵部には閑静な住宅街が広がる多様な個性と魅力を有しています。

駅周辺には、かつてより市のシンボル的な施設が多数立地していますが、宝塚ファミリーランドの廃園とともにかつての観光地の姿が大きく変貌しています。今後は「歌劇ゾーン」「商業系開発ゾーン」「ガーデンゾーン」「住宅系開発ゾーン」の4つのゾーンに分けられ、「緑溢れるエンターテイメント・ビレッジ 宝塚」をコンセプトにして再開発が進められています。

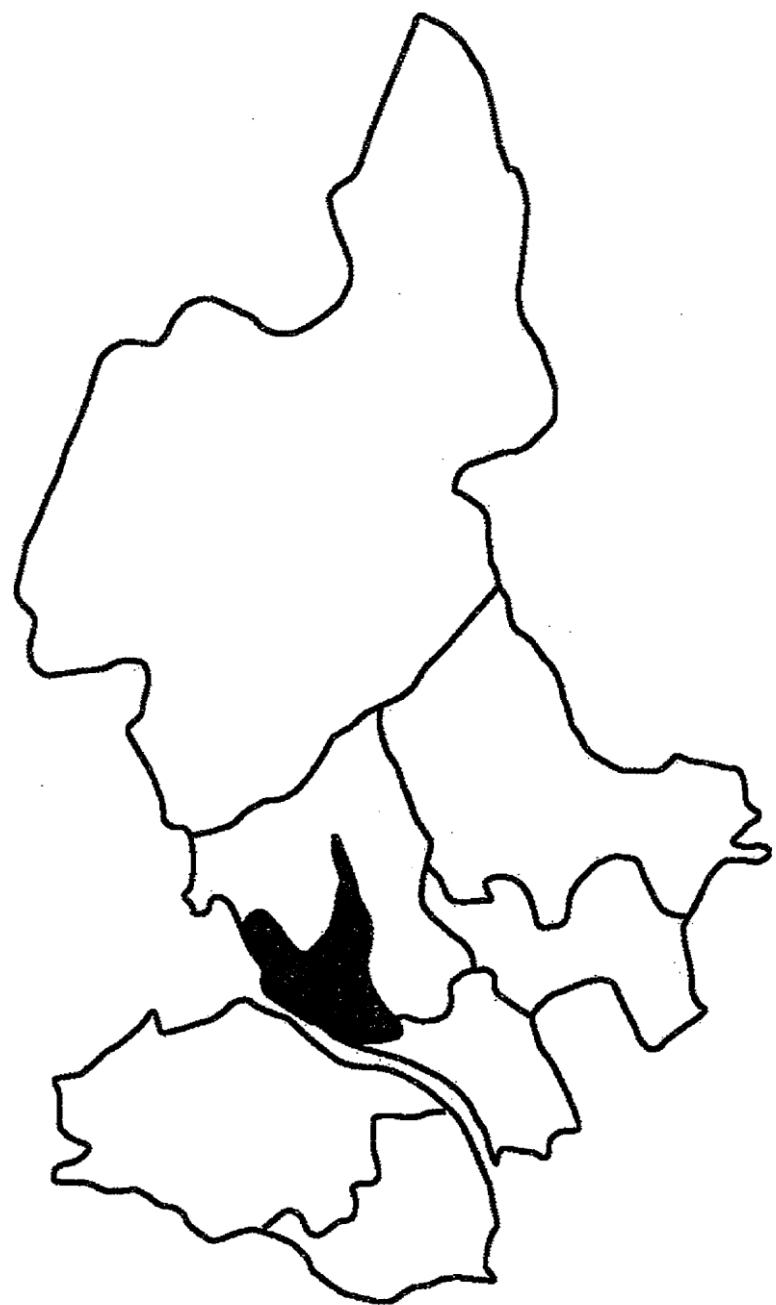
有馬街道沿いの川面地区には、歴史のある神社や家屋が残っています。丘陵部にかけて木々が茂る縁の空間、さまざまな生き物が棲むため池・湧水などが点在しており、人の心もゆったりとさせてくれる大切な自然も残されています。一方で、古い住宅が集合住宅に変わること、住環境の変化もみられます。

このような宝小コミュニティ地域には、現在約1万7千人の人が暮らしています。市全体と比較すると未成年者の割合がやや少なく、高齢者の割合がやや多くなっています。平成11年から16年までの5年間に約1千3百人の人口増、1千世帯以上の世帯増がありました。交通の利便性が高く、商業施設も立地し、また山や川を感じられる良好な住宅地、人ととのほどよいつながりが残されているという暮らしの場としての魅力も高い宝小コミュニティ地域には、今後多くの人が移り住んでこられることが予想されます。

平成16年8月末現在の人口

		0歳～19歳	20歳～64歳	65歳～	合計
地域の合計	人口(人)	3,046	10,654	3,282	16,982
	割合(%)	17.9	62.7	19.3	100.0
宝塚市全体	人口(人)	43,061	138,199	38,934	220,194
	割合(%)	19.6	62.8	17.7	100.0

宝小コミュニティの位置図



わたし達のまちの魅力

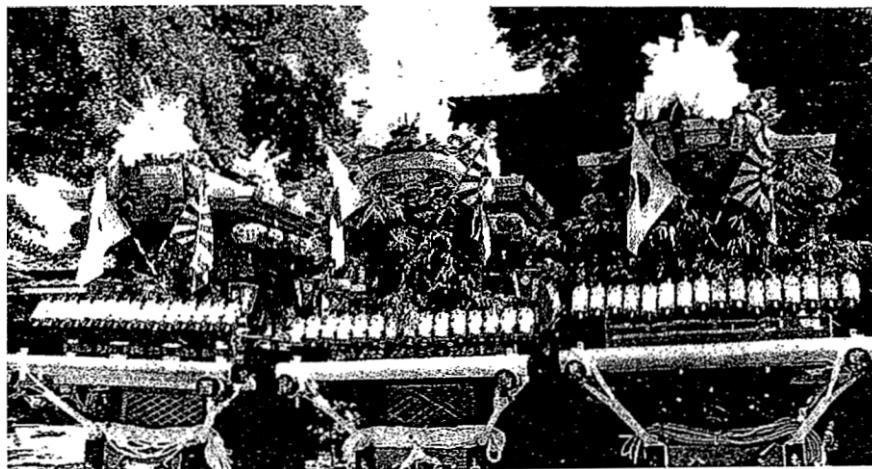
＜歴史・文化＞

宝塚は、古く縄文・弥生時代にさかのぼる昔から、人々の営みが続けられてきたといわれています。天皇や貴族などの有馬温泉に通った街道のあるこの地域にも、794年創立と伝えられる川面神社をはじめ、川面皇太神社、慈雲山宝泉寺の古い寺社仏閣など、歴史を感じられるものがたくさん残されています。1701年に岡田溪志という人物が編さんしたとされる地誌・摂陽群談に「この塚のそばで物を拾う者に必ず幸せあり。このことによって宝塚の名が付いたといわれている」と紹介されている「宝の塚」が御殿山3丁目にあります。

明治17年に温泉発見、明治20年に宝塚温泉開業、明治30年に阪鶴鉄道（現在のJR宝塚線）開通、明治末に箕面有馬電気軌道開通。そして、大正3年には宝塚少女歌劇（現在の宝塚歌劇）が誕生し、「歌劇と温泉のまち」として全国に知られるようになりました。

宝塚駅から新温泉に続く「花のみち」は、武庫川の旧堤防で、松の並木でしたが、桜ややまぶきなどの花樹が植えられ、この名称で呼ばれるようになりました。

川面地区には3基のだんじりの山車が受け継がれており、10月22・23日にはその絢爛豪華な姿を現します。千吉保存会によって8月19日に千吉踊りが披露されます。8月1日・2日に武庫川を舞台としてくりひろげられる花火大会は、宝塚の夏の風物詩です。

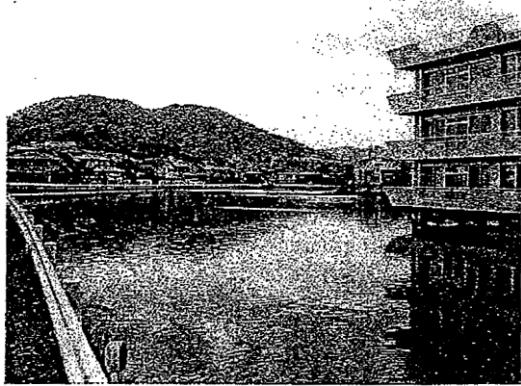


川面だんじりの山車 宝塚小学校「創立百周年記念誌」より

＜自然・景観＞

宝小コミュニティ地域には、武庫川とそれに流れ込む荒神川、一後川、惣川の4つの河川が流れ、それぞれに水と緑の豊かな空間が広がっています。また、農業用水として利用されてきたため池である下の池、谷池、広沢池などもあり、四季折々に野鳥が飛来してきます。

このような水辺や丘陵地、神社境内などには、桜並木や大木も残され、まちの中にも心和む空間が点在しています。個人宅の縁も豊かで、静かなまちなみの住宅地もたくさんあります。



下の池を望む風景



桜並木



斜面地に残る木々



川岸に残る緑

<コミュニティ>

宝小コミュニティ地域は、14の地区に分かれ、それぞれに自治会、老人会、子ども会などの活動が展開されるとともに、青年団やだんじり保存会などが活動している地区、有志によるまちづくりの会を結成している地区などもあります。

宝小コミュニティは、次のような活動を実施しています。

広報活動部	部員が積極的に地域でかけて取材をし、年3~4回の手作りで読みやすい広報誌「宝小コミュニティだより」を発行
文化学習活動部	地域の自治会館を使って、謡曲、寄せ植えや料理教室などの公衆事業を実施
健康スポーツ活動部	第2・4土曜日のスポーツ教室や子ども育成活動部と共に催による行事を実施
子ども育成活動部	「テニスで遊ぼう」「どろんこあそび」から「ジャズを楽しもう」まで、子どものみならず、地域有志の方が積極的に関わっていただける行事も実施
福祉活動部	講演会や施設訪問のほかに、年2回恒例になっている三世代交流会食会として小学生から高齢者が交流する機会を開催
全体事業	7月下旬に宝塚小学校にて盆踊りを定例開催

わたし達のまちの課題

① 宝塚の顔づくり

- ★新たな宝塚の魅力づくり
- ★JR 駅前再整備

宝塚駅周辺は、都心シンボルゾーンに位置づけられ、商業・業務・観光・文化など宝塚市の中心として、すでに商業施設、公共施設、文化・観光施設が多数立地する地域ですが、さらなる整備が進められています。

特に広大な敷地を占めていた「宝塚ファミリーランド」の跡地利用は宝塚の新しい顔づくりとして注目されるところですが、「緑溢れるエンターテイメント・ビレッジ 宝塚」をコンセプトにして、「歌劇ゾーン」「商業系開発ゾーン」「ガーデンゾーン」「住宅系開発ゾーン」に再開発されています。

既にオープンしている英国風ナチュラル庭園やペットパークからなる「宝塚ガーデンフィールズ」は新たな憩いの空間となっています。ファミリーランドのメリーゴーランドがシンボルとして残されるそうですが、宝塚の新たな顔づくりが進められており、21世紀にふさわしい、心にも、空間的にも、快適でゆとりのあるまちづくりが期待されます。

JR 宝塚駅周辺は宝塚市の玄関口であり、宝塚市では「宝塚市交通バリアフリー 重点整備地区」に指定し、駅の橋上化をJRに対して提案しています。くわえて、駅前広場における円滑な交通処理、JRと阪急電鉄間の乗り換え利便性の向上、駅周辺地域の活性化を果たすべく、協議・検討も進められています。

このような宝塚の顔に暮らすものとして、より安心で利便性、快適性の高いまちづくりを求めていく一方で、ここで営み・働く人、ここに楽しみにやってくる人、そして新たに住もうと考えている人にとって、魅力的な空間であるために、どのような顔づくりにするべきかを共に考え、またできることを協働していくことが重要であるといえます。

② 安全・快適な道路・交通

- ★都市計画道路「伊子志旭町線」の早期着工・開通
- ★警察や行政との連携による道路の安全対策の推進
- ★歩行者、運転者の道路の特性把握と交通マナーの向上
- ★まちのバリアフリー化の推進

わたし達のまちは、阪神地域から丹波、福知山を抜け日本海側の宮津市に至る国道176号が通過しています。広域幹線道路であるため、朝夕に渋滞が発生し、それを避ける車が有馬街道に流入するなど、住宅街での通過交通も増えています。

武庫川右岸へは宝来橋、宝塚大橋が架けられていますが、いずれも観光地を抜ける狭い道路であり、都市計画道路「伊子志旭町線」の早期着工・開通が望まれています。

また、古い住宅地では幅員が狭く、複雑に合流するなど見通しの悪い道路、歩道が確保されていない道路も多くなっています。子どもや高齢者などの交通の安全性の確保のため、警察や行政と連携して、安全対策を進めていくことが課題となっています。

小学校登校時には、通学路で保護者や町内会役員などが安全確保の見守りを行っています。子どもなどの歩行者が自ら身を守ることができるよう、交通マナーの向上に取り組むとともに、車を活用するすべての地域住民の注意を喚起し、事故の発生を未然に防止する心構えをもつことが大切だと考えています。

JR宝塚線の利便性が向上しましたが、そのために通勤時間帯は踏み切りが降りたままの状態が続くようになりました。JR宝塚駅改札まで陸橋を渡ることもできますが、駅の中で再度階段を上り下りしなければなりません。JR宝塚駅は宝塚市の玄関口でもあるため、市も「宝塚市交通バリアフリー 重点整備地区」に指定し、基本構想が策定され、検討が進められていますが、バリアフリーの早期実現が緊急課題であると考えています。

阪急清荒神駅についても地元において南改札口の常時利用によるバリアフリー化の実現を長年要望してきました。その甲斐あって南改札口の常設が実現する模様です。

なお、「宝塚市交通バリアフリー 重点整備地区基本構想」では、2010年を目標年次として、整備目標「みんなが“集い ふれあい にぎわう”都市拠点に相応しい移動ネットワークづくり」を掲げて、駅と福祉施設などをつなぐ歩行空間のバリアフリー化も進められています。駅前などには放置自転車も多く、利用者のマナー向上も必要となっています。ハードのバリアフリー化だけでなく、誰もが快適に利用できる歩行空間づくりを目指したソフト面でのバリアフリーを実現することも大切であると考えています。

③ 安心な暮らしを支える仕組み

- ★いざという時を支える地域防災体制の見直し
- ★安心して暮らすための防犯の取組みの工夫
- ★障害者や高齢者が自立して暮らせるまちづくり
- ★子どもが伸び伸びと育つまちづくり

阪神淡路大震災では、宝塚市多くの地域、人が被災しました。宝小コミュニティ地域も例外ではありませんでしたが、古くからさまざまなイベントや日常的なご近所づきあいなどのつながりがある地域では、声の掛け合い、助け合いが行われました。

震災後、新規に住宅がたくさん建設され、新たにこの地域に移り住んできた人も増えています。子育て世帯は地域とのつながりができるのですが、高齢者や単身者、子どものいない共働き世帯などでは地域に関わる必要性も少なく、特に匿名性の高い集合住宅では、隣近所の人の顔もわからないというところもでています。

近年、宝塚市でも空き巣やひったくりなどの被害が増加しており、防災のみならず、防犯面でも安心して暮らすための取り組みが必要となってきています。防犯は、地域にたくさんの住民の目が向けられていることが犯罪発生の抑止力になるといわれています。

現在、宝小コミュニティでは、小学校のPTAと地域が連携して、「アトム110番」や「自転車へのパトロール中の掲示」「パトロール隊の結成」などを実施していますが、協力者は増えていません。より多くの人の協力のもとで、さまざまな防犯の取組みが進むような工夫が求められています。

④ 宝塚のイメージに合う環境・景観

- ★まちの個性や魅力の再発見
- ★まちの情報の受発信機能の向上
- ★歴史、文化、自然環境を活かした美しいまちづくり

宝塚市は全国に知られたまちで、そのイメージも高いものになっていますが、時代の流れ、まちの変化とともに、必ずしもイメージに合う環境や景観ではなくなっているのではないか、と強く感じている住民も多くなっています。

宝小コミュニティ地域は、観光地、文化施設、住宅地、自然との共生空間などさまざまな個性と魅力を抱えた地域です。場所や地域ごとにそれぞれの特徴を活かし、環境や景観を保全・創造していくことが大切です。

どのような環境・景観を残し、育てていくべきかについて、住んでいる者も考え、行動していくために、まずは、自らのまちの個性や魅力を再発見し、歴史や文化、自然についての情報を集約し共有していくこと、また、地域で取り組まれているさまざまな行事・イベント情報の発信機能も充実させていく必要があると考えています。

また、観光地宝塚のイメージは変わりつつありますが、歴史や文化を求めて宝塚を訪れる人がおられます。また、河川やため池、湧水地には大小さまざまな生き物が生息しています。多様な生き物が身近に暮らす環境も大切にしなければなりませんし、何よりもごみなどの目障りなものをまちに置かない、「落ち着き」「おしゃれ感」「懐かしさ」「親しみやすさ」など、宝塚のイメージを大切にするまちづくりは、住んでいる者にとっても心豊かなまちづくりになるのではないかと考え、美しいまちにしていくための具体的な取組みを積み上げていく必要があると考えています。

わたし達のまちづくり計画

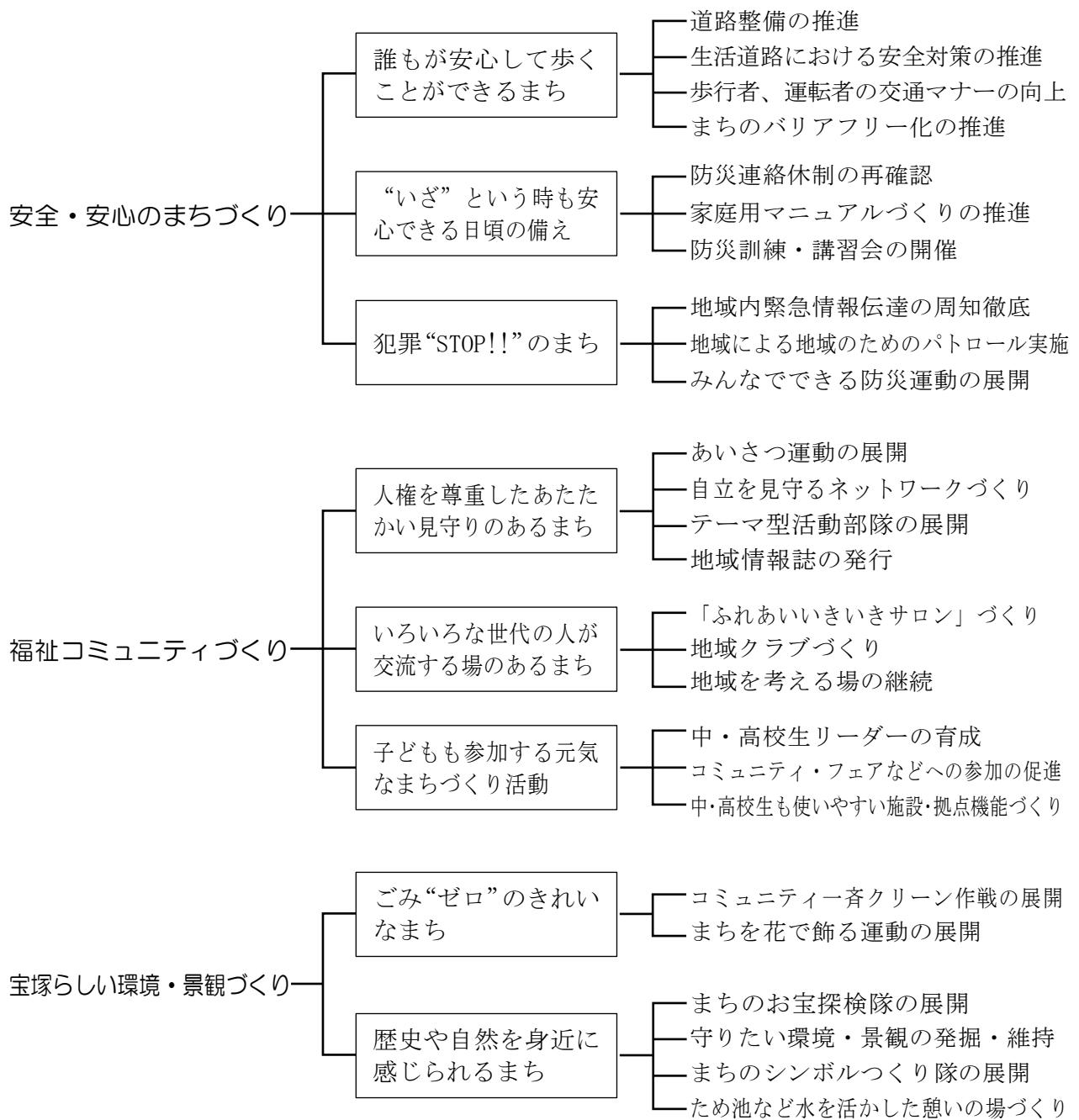
宝塚の顔としての安心・安全・快適なまちをめざして

私たちは次のようなまちづくりに取組みます。

まちづくりのテーマ

目 標 像

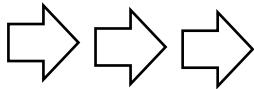
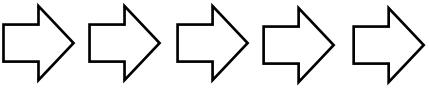
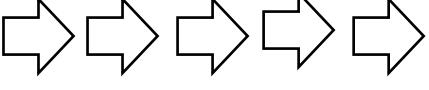
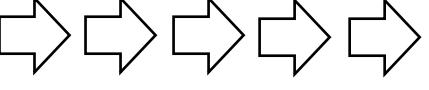
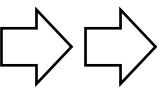
取組みの方向性

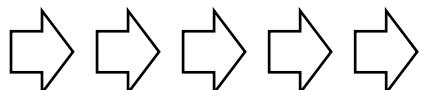
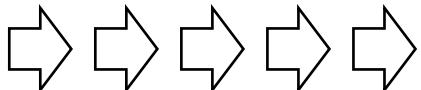


8つの目標像に込めた思い・願い

誰もが安心して歩くことができるまち	道路を整備すると車の量が増え、いつまでも安心が得られることはありません。車のための道から歩行者と共生する道に視点をかえた取組みをしていきたいと思います。
“いざ”というときも安心できる日頃の備え	阪神淡路大震災から10年を経て、この地域では以前の生活が戻っていますが、各地で地震の被害が出ています。あの時の教訓を忘れないよう、あらためて地域のみんなで“いざ”という時の備えを見直したいと思います。
犯罪 “STOP!!” のまち	治安がよかったです宝塚市でも犯罪発生件数が増えています。地域が立ち上がることで犯罪の発生を未然に防止している地域があります。わたし達もひとりひとりができる事を集めて、安全なまちづくりに取り組みたいと思います。
人権を尊重したあたたかい見守りのあるまち	専門家でないとできないケアもありますが、住み慣れた地域で、友達に囲まれながら、できるかぎり自立して暮らしていきたいというのはみんなの共通の願いです。地域のゆるやかなつながりの中で、実現できることもあると思います。
いろいろな世代の人が交流する場のあるまち	世代や経験の違う人が集まるからこそ「新しい発見がある」「知らなかったことがわかった」ということはたくさんあります。地域の中でこのような場があると、もっと素敵なお生活が創造できると思います。
子どもも参加する元気なまちづくり活動	子どもは社会の宝です。でも今の子ども達は、体験に基づいた知識を得ることが難しくなっています。いろいろな人と出会い、さまざまな経験を通じて、大きく成長してもらう場・機会は、地域だからこそできることだと思います。
ごみ “ゼロ” のきれいなまち	ごみは突然降って湧いてくるものではありません。きっと誰かが落としているのです。まちもわたし達の生活の一部なのだから、やはりきれいにしておきたい。みんなでマナーを守っていきたいです。
歴史や自然を感じられるまち	この地域にはたくさんの歴史、自然、文化があります。住んでいる者がもっと地域を見直して、その魅力を日々の生活の中に感じることで、より豊かな日常が過ごせるのではないかでしょうか。良好な地域の環境・景観を維持・創造するために、地域の良いところを再発見していきたいと思います。

安心・安全のまちづくり

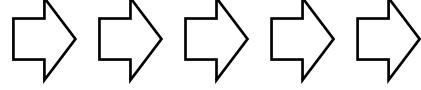
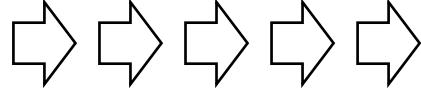
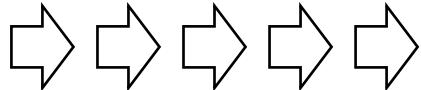
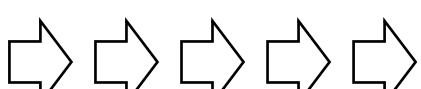
目標像	誰もが安心して歩くことができるまち		
取組みの方向性	道路整備の推進		
	生活道路における安全対策の推進		
	歩行者、運転者の交通マナーの向上		
	まちのバリアフリー化の推進		
具体的な取組み	短 期	中・長期	
道路整備の推進	都市計画道路「伊子志旭町線」の早期着工を市に要望する。 (コミュニティ)		
生活道路における安全対策の推進	見通しの悪い道路、交通量の多い道路における歩道白線の整備、ミラーの設置など歩行者の安全確保のための対策を要望する。 (自治会) 住宅建替え時にセットバックし、道路空間を確保しよう。 (所有者)	 	
歩行者、運転者の交通マナーの向上	通学路の周知徹底を図り、運転者の注意を喚起しよう。 (PTA・コミュニティ) 子ども（幼児・小学生）に対してまちを歩きながらの交通安全教室を実施しよう。 (PTA・コミュニティ)	 	
まちのバリアフリー化の推進	JR 宝塚駅の橋上駅化に関して、関係機関との定期的な情報交換を行い、適宜、地域に情報提供を行おう。 (コミュニティ) 重点整備地区におけるバリアフリー化の実現を進め、バリアフリーについて地域で考える機会をもとこう。 (市、自治会)	 マナーを守り、子どもや高齢者、障害者にやさしいまちづくりを一人一人が意識するようにしよう。 (個人)	

目標像	“いざ”という時も安心できる日頃の備え	
取組みの方向性	防災連絡体制の再確認	
	家庭用マニュアルづくりの推進	
	防災訓練・講習会の開催	
具体的な取組み	短 期	中・長期
防災連絡体制の再確認	<p>単位自治会、マンションでの防災用連絡網づくり、安否確認体制を徹底しよう。 (自治会・マンション管理組合)</p> <p>防災リーダーの連絡体制、情報収集・発信体制、救援体制など、災害発生時の役割についてシミュレーション訓練を実施しよう。 (行政、自治会・マンション管理組合、コミュニティ)</p>	<p>年に1回は合同で確認会議、リーダー研修を開催しよう。</p> 
家庭用マニュアルづくりの推進	<p>緊急避難ルート、緊急連絡先を周知徹底しよう。 (行政、自治会・マンション管理組合、コミュニティ)</p> <p>各家庭で緊急時対応マニュアルをつくるためのシートづくりを検討し、各家庭に配布しよう。 (行政、コミュニティ)</p>	<p>新規入居者への情報提供、マニュアル配布を実施し、みんなの備えを助け合おう。 (自治会、マンション管理組合)</p> 
防災訓練・講習会の開催	<p>防災訓練時に要援護者の確認をしよう。 (自治会、防災組織)</p>	<p>マンションで高齢者や障害者を援助しながら一斉避難する訓練を実施しよう。 (マンション管理組合)</p>

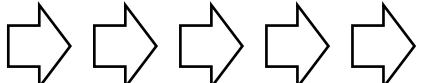
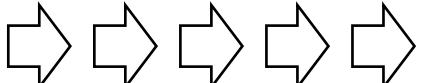
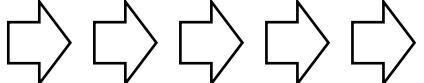
地域の取組み・ナウ

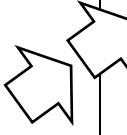
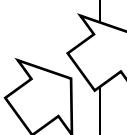
<自主防災組織>

川面地区や宝塚駅周辺では、独自に自主防災組織を結成しています。これらの地区では、独自に消火器や防災機材の設置や防災連絡網の整備、防災訓練などを実施して、“いざ”に備える体制を敷いています。

目標像	犯罪“STOP!!”のまち		
取組みの方向性	地域内緊急情報伝達の周知徹底		
	地域による地域のためのパトロール実施		
	みんなでできる防犯運動の展開		
具体的な取組み	短 期	中・長期	
地域内緊急情報伝達の周知徹底	<p>警察と協議をして、事故や犯罪発生に関する警察からの連絡は、回覧・掲示できるよう画面化してもらおう。 (コミュニティ)</p> <p>事故や犯罪が発生したら、直ちに各自治会、マンションで緊急情報の回覧・掲示を行おう。 (自治会、マンション管理組合)</p>	 	
地域による地域のためのパトロール実施	<p>気軽に参加してもらえるパトロールのあり方について引き続き検討しよう。 (自治会、コミュニティ)</p> <p>小学校PTAが実施しているパトロール中のステッカーを掲示してくれる人を増やそう。 (PTA、コミュニティ、自治会)</p>	<p>警察と相互に連携した緊急情報提供の仕組みについて検討しよう。 (コミュニティ)</p> 	
みんなでできる防犯運動の展開	<p>不審者を見かけたら、ご近所で注意をしあおう（声を掛け合えるような関係づくり）。</p> <p>新規入居者の顔を覚えるようにしよう。 (個人、自治会)</p> <p>午後11時くらいまでは各家で門灯を灯火し、帰宅者の安全・安心確保を助け合おう。 (各家、自治会)</p>	 	

福祉コミュニティづくり

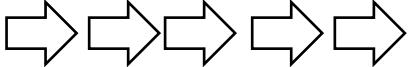
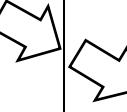
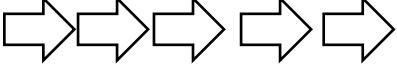
目標像	人権を尊重したあたたかい見守りのあるまち			
取組みの方向性	あいさつ運動の展開			
	自立を見守るネットワークづくり			
	テーマ型活動部隊の展開			
	地域情報の発信			
具体的な取組み	短 期	中・長期		
あいさつ運動 の展開	<p>お互いに気軽に声を掛け合える よう「あいさつ運動」に取り組もう。 (個人、自治会)</p> <p>回覧板はできる限り手渡しにしよう。 (個人、自治会)</p>	 		
自立を見守る ネットワーク づくり	<p>一人暮らしの高齢者や障害者がいる家を地域で把握しておくために、敬老の日を活用しよう。 (自治会)</p> <p>緊急通報システムの紹介・活用や緊急連絡先の登録など“万が一”を地域で支えあう仕組みづくりを検討しよう。 (自治会、コミュニティ、社協、民生委員会)</p>	 <p>地域で“万が一”を支え合う仕組みを運用しよう。(緊急時協力員の登録・派遣)。 (社協、民生委員会、自治会、コミュニティ)</p>		
テーマ型 活動 部隊の展開		<p>地域でボランティアグループなどを結成して、地域ごとの課題に対応できる活動を展開していく。</p> <p>(社協、民生委員会、自治会、コミュニティ)</p>		
地域情報の発 信	<p>コミュニティの広報体制を充実し、地域の情報が集まる仕組みづくりを検討しよう。 (自治会、コミュニティ、社協、民生委員会)</p>	<p>ホームページなど多様なツールをつかって、地域から集まるいろいろな情報を発信していく。</p> <p>(コミュニティ)</p>		

目標像	いろいろな世代の人が交流する“場”のあるまち	
取組みの方向性	身近で楽しむサロンの展開	
	地域クラブづくり	
	地域を考える場の継続	
具体的な取組み	短 期	中・長期
身近で楽しむ サロンの展開	<p>「ふれあい いきいきサロン」に もっといろいろな人が遊びに来て もらえるよう、情報を発信して いこう。</p> <p>どんな「サロン」が求められてい るかをみんなで検討しよう。 (社協、コミュニティ、自治会)</p>	<p>もっと身近な場所で多世代が交 流する場を運営する人づくりをし よう。 (社協、コミュニティ)</p> <p>身近で多世代が交流できる場を探 し、「サロン」を増やそう。 (自治会、コミュニティ)</p> 
地域クラブづ くり	<p>さまざまな世代の組織、グループ に呼びかけて地域の中で情報交 換会を開催しよう。 (自治会、コミュニティ)</p> <p>地域でさまざまに取り組まれて いる趣味の会などのクラブを把 握しよう。 (自治会、コミュニティ)</p> 	<p>クラブ組織の活動状況に関する情 報を発信しよう。 (コミュニティ)</p> <p>クラブ組織の活動発表の場を設け よう。 (コミュニティ)</p>
地域を考え る 場の継続	計画策定後もコミュニティで、継 続的に検討すべき事項について、 考える場を設定しよう。 (自治会、コミュニティ)	テーマごとに解決方策を練る検討 グループづくりをしよう。 (自治会、コミュニティ)

地域の取組み・ナウ

<御殿山 「ふれあい いきいきサロン」>

御殿山よりあいひろばでは、高齢者のとじこもり予防として、週に 1 回「ふ
れあい いきいきサロン」を開催しています。

目標像	子どもも参加する元気なまちづくり活動	
取組みの方向性	中・高校生リーダーの育成	
	コミュニティ・フェアなどへの参加の促進	
	中・高校生も使いやすい施設・拠点機能づくり	
具体的な取組み	短 期	中・長期
中・高校生リーダーの育成	<p>中・高生を対象としたブレイリーダー育成講座を青少年育成課に働きかけて実施してもらおう。 (コミュニティ、PTA)</p> <p>中・高校生に呼びかけて、放課後遊ぼう会や冒険ひろばにボランティア参加してもらおう。 (コミュニティ)</p>	 
コミュニティ・フェアなどへの参加の促進	<p>自然観察会、お宝探検隊に中・高校生の参加も呼びかけ、一緒に研究活動をしてみよう。 (学校、コミュニティ、PTA)</p> <p>コミュニティ・フェアに中・高校生プログラム部分をつくり、企画提案をしてもらおう。 (コミュニティ)</p>	<p>中・高校生から地域に対して活動の提案、実践をしてもらおう(ブレイリーダー登録、地域活動クラブ等)。 (コミュニティ、自治会)</p> 
中・高校生も使いやすい施設・拠点機能づくり	<p>中・高校生の自主活動を支援する体制について市に早期検討してもらおう。 (子ども会、だんじり保存会、コミュニティ)</p> <p>中・高校生が活用できるよう児童館の閉館時間を遅らせよう。 ボール遊びの場を確保しよう。 (コミュニティ、PTA)</p> <p>公民館など活動の拠点施設の利用方法などについて見直そう。 (コミュニティ、自治会)</p>	<p>中・高校生の地域自主活動を支援する体制をつくろう。 (学校、コミュニティ、PTA)</p> 

宝塚らしい環境・景観づくり

目標像	ごみ“ゼロ”のきれいなまち	
取組みの方向性	コミュニティー斎クリーン作戦の展開 まちを花で飾る運動の展開	
具体的な取組み	短 期 中・長期	
コミュニティー斎クリーン作戦の展開	小・中学校に声をかけて、地域内の主要ポイントでクリーン作戦を再開しよう。 (学校、コミュニティ、自治会、PTA)	コミュニティー斎クリーン・ディを設けて、回収したごみの量がどれほど減ったかをみんなで検証しよう。 (自治会、コミュニティ)
	どのようなごみがポイ捨てされているかを調べ、ごみ“ゼロ”への協力の啓発PRをしよう。 (学校、コミュニティ、自治会、PTA)	
まちを花で飾る運動の展開		特にポイ捨てが目立つ場所に花を飾る運動をしてみよう。 (自治会、コミュニティ) 地域美化のために活用する花をみんなで育てる仕組みづくりに取り組もう(高齢者や障害者、小学校などで種から育ててもらう)。 (コミュニティ)

目標像	歴史や自然を身近に感じられるまち	
取組みの方向性	まちのお宝探検隊の展開	
	守りたい環境・景観の発掘・維持	
	まちのシンボルつくり隊の展開	
	ため池など水を活かした憩いの場づくり	
具体的な取組み	短 期	中・長期
まちのお宝探検隊の展開	<p>各地域ごとにまちのお宝情報を収集する「まちのお宝探検隊」を結成し、まち歩きを行う。 (コミュニティ、自治会、PTA)</p>	<p>地域全体の散策ルート、マップづくりを行おう。 (コミュニティ、まちのお宝探検隊)</p> <p>案内板の設置など情報提供について市と協議しよう。 (自治会、コミュニティ)</p>
守りたい環境・景観の発掘・維持	<p>地域で「残したい環境、守りたい景観」を集めるフォトコンテストを開催しよう。 (コミュニティ)</p> <p>環境・景観を守るためのアイデア募集も行ってみよう。 (コミュニティ)</p> <p>都市再生プロジェクトに参加して、景観・まちづくりと一緒に考えてみましょう。 (個人)</p>	<p>「残したい環境、守りたい景観」を維持・管理、保全していくための仕組みづくりを検討しよう。(行政、コミュニティ)</p> <p>所有者に結果を知らせて、協力を仰ぎ、地域でできることを協議しよう。 (自治会、コミュニティ)</p>
まちのシンボルつくり隊の展開	「花のみち」をモデルにして、地域内外の愛好家を集め、市・専門家と協力して、デザイン～施工までを学習・実践するプログラムを実施しよう。 (市、自治会、コミュニティ)	まちのシンボルを選び出し、それをより魅力的にする「まちのシンボルつくり隊」を結成し、整備活動を展開しよう。 (コミュニティ、まちのシンボルつくり隊)
ため池などを水を活かした憩いの場づくり	ため池の活用状況や自然調査を実践しよう。 (ため池管理者、コミュニティ)	ため池公園化の可能性を検討しよう。 (市、ため池管理者、コミュニティ)

計画を実現するために

スタートライン

「まちづくり計画案」は、「宝小コミュニティまちづくり計画策定部会」の46名が、日頃の活動の中で見たこと・聴いたこと、そして考えていたことを集め、議論しながらまとめたものです。この計画案をたたき台として、よりたくさん的人が意見や知恵を出し合い、各団体での具体的な取り組みにつながっていくことを願って筆を置きました。

これをスタートラインとして、みんなで“わたし達のまち”をつくっていきたいと思います。

第1段：「まちづくり計画案」を知ってもらう

「まちづくり計画案」をみんなに知ってもらうため、自治会単位で説明会兼意見交換会を開催しましょう。

意見交換会で出された意見・アイデアは大切にし、みんなで共有し、まちづくり計画の実行段階で活かしていきましょう。

第2段：具体的な意見・アイデアをあつめて実行する

各団体ごとに、活動計画をつくる段階で、「まちづくり計画案」の中で描いた取組みを参考にしてもらい、計画に魂を吹き込む具体的なアイデアを検討してみましょう。

小さな1歩がたくさん集まると、大きな1歩になることを信じて、実行できそうな項目について、関係する他団体と協議する機会もつくりましょう。そのために、年に1～2回の団体交流会を開催しましょう。

そして、団体や地区の垣根を越えて、協働できそうなことはできる限りみんなで力を合わせて実現していきましょう。

第3段：次のステップをみんなで確認する

それぞれの団体がどのような取組みを行ったか、どのようなことが課題となっているのか、どのような成果があったのかを、他の団体や地域のみんなが知ることができるよう、情報を定期的に集めて、発信していきましょう。

そして、次の活動に活かし、次のステップとして取組むべきことをみんなで確認し、新たな取組みを企画・実行していきましょう。

緊急課題

このような取組みを支える体制づくり

コミュニティ活動が新しい局面を迎えてます。自治会や各団体との役割分担をはかりながら、やるべき仕事をやる体制づくりをみんなであらためて議論しましょう。

(地図省略)

凡 例	
交通バリアフリー重点整備地区	——
集団登校通学路	——
交通事故発生場所	*

